

GIS と地図表現を活用した全球気象状態の再現

Reappearance of the global climate using GIS and Map expression

石川 剛 [1]

Go Ishikawa[1]

[1] (株)東京地図研究社

[1] Tokyo Map Reserch Co.Ltd.

<http://www.t-map.co.jp/>

地球惑星科学分野における事象の表現は専門家が読み解くには十分な情報を与えるが、初心者にとって必ずしも分かりやすいものとは言えないことも多い。一方、地図作成分野で培われてきた手法は視覚効果を重視しているため、位置情報をより見やすく表現するのに適しているが、地球惑星科学分野に効率的に利用されている例はまだ少ない。GISの普及によって地図表現の幅は格段に広がっており、こうした分野での適応が教育を含めた一般への普及啓蒙にとって有効であると考えられる。

今回は、米 NOAA (海洋大気圏局) によって公開されている全世界の気象データ(*1)と GIS(*2) を使って誰にでも分かりやすいような気象状態 (大気圧分布図) を作成し、視覚的インパクトを与えるような表現方法を考えてみたい。

ポスター発表では、いくつかのパターンで表現方法の検証結果を紹介する予定である。

*1 : NOAA NCDC (National Climatic Data Center)

<http://www.ncdc.noaa.gov/oa/ncdc.html>

*2 : ESRI 社 ArcInfo9.1 日本語版、SpatialAnalyst、3DAnalyst